

2020 年新年号

へそ按腹たより

へそ按腹普及会 日本事務局



新年号

【ご挨拶】

明けましておめでとうございます。2020 年、令和最初の年明けです。

今年は新しい節目の年と言えましょう。オリンピックが開催されることもあって、今日本は世界中から注目を集めています。日本人の人格が認められ、治安の良さ、街の清潔さは世界有数と言われ、技術的にも毎年ノーベル章を授与される研究者を輩出しています。

私達はその日本から新たに世界に発信していくものとして、「へそ按腹」を推進していきます。

「へそ按腹」においても今年は新しい出発の年と言えましょう。按腹と聞いただけでは、古い昔の医術と見られがちですが、昨年より、皮膚表面の刺激が身体にどういった変化をもたらすのかを科学的に検証してきました。今年はその科学的な証明を本格的に進めて行く年になります。

韓国からの研修生も 2 年間を無事に終了し、3 月に帰国します。皆さまには心から感謝申し上げます。

アフリカからの研修生の再来日は、語学の問題からまだ時間が必要です。

【活動報告】

リウマチと外反母趾

長年リウマチを患い、歩くのが困難であった患者さんの話しです。膝の関節が変形し杖を突きながら来院されていました。また外反母趾の痛みも強く、足の親指は大きく内側に曲がっていました。

ひどい外反母趾は、背後にリウマチが隠れているようです。

若い頃から肩凝りや頭痛があり、寝込むことも多かったです。治療を続けて、膝や親指の痛みがとれ、肩凝りや頭痛もなくなりました。「生きていくのっかんがこんなに楽なんて信じられない」と言って、表情も明るくなり、益々若々しくなりました。

原点に帰って

ある程度効果が出ていたのに、また症状が出てきた、違う形で症状が現れた、今ひとつ境界線がわからない、などという時は必ずもう一度丁寧に肋骨内

側を診て下さい。鳩尾から心脾肺肝の順に丁寧に打鍼をかけるか、手でなで下ろすように按腹して下さい。肋骨内側も効果が出ない場合、最後はやはり**神闕**=へそをつかうべきです。へそ裏に反応がありそうな患者さんは必ずへそのツボ **神闕** を使うのです。表裏一体です。へそ周りに邪が集まり、盛り上がっています。

ALT (GPT) が下がった

ALT の値が 240 まで上がりました。肝臓の自己免疫によるものです。このままでは肝硬変になり、やがて肝がんに移行すると医師から告げられました。

5 回の治療を行い再検査した結果、なんと 60 まで数値が下がっていました。正常値が 44 ですから、まず本人が驚き医師にも鍼治療を受けていると伝えたそうです。「そんなの効かないよ、上がり下がりしながら悪くなるんだ」と言いながら、どこに鍼を刺すのかと不思議そうに尋ねてきたそうです。

肝のスジ

肝の強いスジ、多くの症状を引き起こす最も厄介なコリです。あまりに堅くスジ張るので、直接もみほぐしたくなりますが、たいへん注意が必要です。

なぜなら肝は元々上に上がる性質があります。やたらに刺激すると、一気に気が上がり眩暈をおこします。丁寧に境界線を見つけ、スジの周りを診て下さい。一気に上がった時はへそ裏を診て下さい。

講座のご案内

定例会 1 月 22 日(水) 10:00~

テーマ「顔面麻痺の考察」会費 6000 円

上級セラピスト補習講座 日程は未定です。

定例会の内容をわかりやすく解説し、実技は杉山院長が個人指導致します。

YouTube 会員についてのお問い合わせ

【へそ按腹普及会 (すぎやま按腹鍼灸院内)】

電話 : 03-6206-2666

メール : heso.ampuku.hukyukai@gmail.com